

# 宮柁二記念館だより

2018.11.10

第 49 号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



平成30年8月 ジュニア短歌教室

## 「平成」最後の年…

災害列島 日本…大阪地震、西日本豪雨に北海道胆振東部地震、そして広範に及んだ台風被害、上半期は日本中が自然災害の恐ろしさに見舞われたなかで経過しています。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

当魚沼地域も例年になく暑い夏となりました。七月七日を最後に八月六日まで雨らしい雨が一適も降らず稲作、畑作農家は挙げて用水確保に奔走した夏となりました。

さて、今期の企画展は「柁二『小紺珠』のころ」展です。

これまで『山西省』を除き、歌集単独での企画展は無かったところですが、今回はじめて『小紺珠』をテーマに紹介させていただきました。

この歌集の発行は昭和二十三年十月二十日、『山西省』は昭和二十四年四月十五日であり、本来『小紺珠』が第二歌集、『山西省』は第三歌集となるところ作歌、収録作品を追ってこれが逆となったと思料されています。

戦地から還った柁二の戦後第一声、そのなかで詠まれた当時の生活と家族の歌、その関連資料…。この機会にぜひご鑑賞いただきたいと存じます。

子どもたちへの短歌の普及と短歌大会への応募作品増のため夏休みを利用して開催している「ジュニア短歌教室」、昨年から市公民館からも協力いただき地域に向いて取り組んでいます。

学校への出前授業と併せ、地域のコスモス会員のボランティアによる事業によって、地域の文化としての短歌が根付いていくことが期待されます。

「平成」最後の年末を迎えます。皆さまそれぞれこれまでの歩みを顧みるとともに、お揃いで新年を迎えることができますようご祈念申し上げます。

# 「柁二『小紺珠』のころ」展

第三歌集『小紺珠』には、昭和二十一年一月から昭和二十三年六月までの短歌四五六首が収められており、敗戦直後の国民生活の混乱と窮乏の中から詠み起こされた純度の高い抒情歌に満ちています。

平成最後の年となる平成三十年度は、「柁二『小紺珠』のころ」展として、第三歌集『小紺珠』にスポットを当てた展示をしています。

歌集巻頭歌である「たたかひを終わりとる身を…」の歌は、作者の戦

後の第一声でありました。一兵士だった作者は、結婚し、やがて子を得、一生活者として立ち上がっていったのです。

今回の展示では、時代が大きく変わった『小紺珠』のころの宮柁二の歌とその頃の様子を見出しに沿って紹介しています。ぜひご覧ください。

## 「砂のしづまり」

たたかひを終り  
たる身をあそば  
せて 石むらが  
れる谷川をこゆ

「砂のしづまり」は富山県にある黒部溪谷で作られたものです。柁二



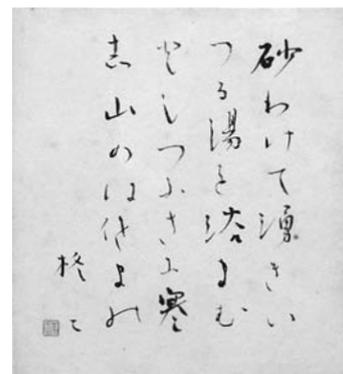
は終戦後、家族が疎開していた黒部・宇奈月を軍服姿のまま訪れました。ある日、黒部溪谷を歩き彷徨った柁二は、黒部溪谷の風景と戦地中国の風景を重ね合わせ、歌を作ったと言われています。

現在、宇奈月には比翼歌碑があり、妻英子の歌もあります。今年度の企画展示では、宇奈月にある歌碑と同じ現物を初めて展示しています。また、黒部を訪れた際に着ていたと言われる軍服の現物も展示しています。柁二は終戦の年に歌を発表しておりませんので、「砂のしづまり」が終戦後の作歌の始まりであると言えます。

## 展示資料から

### 額装色紙

今回の企画展示では、「砂のしづまり」の中から「砂わけて…」の色紙を展示しています。「砂のしづまり」の一連の歌は五首あり、7月22日の宮柁二講座講演会で岡崎康行先生は、宮柁二の歌を学ぶものとしては、一連全部を暗唱できるように親しんでほしいとお話されていました。



砂わけて湧きい  
づる湯を浴まむ  
としつぶさに寒  
し山のはざまの

## 「周辺詠物」

「ぬかるみ」

「硝子戸」

ぬかるみも冬木

の枝も美しく

焼け残りたる

薔薇色の壁

「周辺詠物」から「硝子戸」までは戦後の日々を、特に生活の中にある家族や仕事に対する想いを込めて、歌を作っていました。

また、自分の生活や家族を守るために戦後の時代を過ごしている一方で、北原白秋の弟子ということ短歌の世界でもとても期待されていました。仕事と短歌と忙しい日々を過ごしていたことが想像できます。

短歌作品などが第二芸術と揶揄されるなか、多くの若い歌人と交流をもち新歌人集団を結成しました。そして、この頃、一叢会も組織したのでした。

今回の展示では、当時の歌の色紙額などを写真を交えて展示しています。



## 「小現実集」

「憂愁」

瑠璃色の珠実をつけし

木の枝の小現実を

歌にせむかな

小紺珠の歌のテーマとなったものが「瑠璃色の珠実を…」の歌であり、歌集のなかでも瑠璃色は印象的だと感じられます。

展示では、椋二直筆の短冊のほか、『小紺珠』原稿やゲラを展示しています。



## 妻英子にあてた

書簡の数々

今回は、戦争の終わった昭和二十年九月二十一日～十月十五日の間に、椋二から疎開先の妻英子に宛てた書簡、はがき五通を展示しています。一ヶ月足らずの間のやりとりのなかに伺える家族への思いやり、また自身の生活の様子など、当時の生の声をご覧いただきたいと思えます。

## オープニングセレモニーより



記念講演の橋先生。校歌とご自身の思い出などをお話いただきました。

## 宮椋二先生の校歌

六月十六日に、「椋二『小紺珠』のころ」展のオープニングセレモニーを開催しました。当日は、テープカット、市長あいさつに続き、歌人の橋芳園先生から「宮椋二先生の校歌」と題し、記念講演をしていただきました。

橋先生からは、県内の学校に残る宮椋二が作詞した校歌を解説いただき、橋先生自身がその校歌や宮椋二の言葉に励まされたエピソードなどを紹介いただきました。

「椋二『小紺珠』のころ」展は、平成三十一年三月末まで開催する予定です。まだご覧になっていない方は、ぜひお立ち寄りください。

第二十四回宮柵二記念館全国短歌大会

今年も応募総数は  
一万二千首を超えました

今回で二十四回となる短歌大会は十一月十七日に表彰式を行います。応募状況は、一般の部で九一〇首、ジュニアの部で、一万千首を超える数となりました。

県内外の各学校から熱心にご指導いただき、ジュニアの部は昨年より

も多数の応募をいただきました。

選歌をお願いしました池田はるみ先生と大松達知先生には大変な難儀をおかけいたしました。近年の短歌ブームを背景としてジュニアの部を中心に作品数が多くなり、優れた歌も増えていると期待しています。

また、一般の部では、熱心に数作品を出品される方もおいでです。次年度以降につきましても、奮ってご応募ください。

第24回 宮柵二記念館全国短歌大会 表彰式

- ◎日時 平成30年11月17日(土) 12:30~15:00
- ◎会場 魚沼市堀之内公民館 大ホール  
宮柵二記念館隣り
- ◎内容 ①選者講評 ②表彰式
- ◎交通 (車) 関越自動車道 堀之内IC 3分  
(鉄道) 上越線 越後堀之内駅  
車で3分・徒歩15分
- ◎その他 記念館において特別賞受賞者の短歌色紙を展示します。

短歌大会 応募状況

区分	応募作品数
一般の部	910首
ジュニアの部	11,339首
(小学生)	2,520首
(中学生)	4,105首
(高校生)	4,714首
総計	12,249首

短歌大会 選者ご紹介

おおまつ たつはる  
大松達知 さん

1970年、東京都文京区生まれ。芝高校在学中に作歌を始める。1990年「コスモス」入会(現在、選者・編集委員)。ほぼ同時に、季刊同人誌「棧橋」に参加して研鑽を積む。2016年、「コスモス」内の若手季刊同人誌「COCOON(コクーン)」を企画、参加。(現在、発行人・編集委員)。上智大学外国語学部卒。都内私立中学高校男子校の英語教員。千葉ロッテマリーンズをこよなく愛する。2017年度「NHK短歌」選者を担当。歌集に『フリカティブ』『スクールナイト』『アスタリスク』『ゆりかごのうた』(若山牧水賞)『ぶどうのことば』がある。



いけだ  
池田はるみ さん

1948年、和歌山県海南市生れ。大阪で育ち東京に嫁ぐ。アララギの大内豊子に出会い、短歌の指導を受ける。1985年作品「白日光」で短歌研究新人賞を受賞。1987年「未来」入会、岡井隆に師事。現在編集委員、選者。NHK学園「友の会」選者。現代歌人協会会員。日本文芸家協会会員。歌集に『奇譚集』、『妣が国・大阪』(第6回ながらみ現代短歌賞・現代歌人集會賞受賞)『ガーゼ』(第12回河野愛子賞受賞)『婚とふるしき』、『南無 晩ごはん』、『正座』があり、歌集文庫『池田はるみ歌集』がある。エッセイに『お相撲さん』『あほかいな、そうかいな』。共著に『今日から始める短歌入門』がある。



## 平成30年度 前期事業

年度の前半が終わって秋の深まるなか、今年度前半の事業を振り返ってみました。その一部をご紹介します。

### 堀之内小学校社会科見学来館



7月4日、魚沼市立堀之内小学校3年生の児童が記念館に社会科見学のために来館されました。  
小島館長から、宮柁二や宮柁二記念館について解説いただき、皆さんが熱心に聞いていました。

### 若井健一八海山写真展



7月7日～8月19日、当館エントランスを利用して若井健一八海山写真展を開催しました。柁二が好んだ八海山の写真を中心に展示させていただきました。期間中は大勢の皆様から鑑賞いただきました。

### 宮柁二講座講演会



7月22日、コスモス選者であり長らく当館短歌教室でご指導いただいている岡崎康行先生をお迎えし『『小紺珠』をめぐる』と題して講演いただきました。短歌大会入選者の台湾の方との話を交えながら終戦の頃の『小紺珠』をめぐる様々な話をいただきました。

### 小出高校短歌教室出前講座



7月23日、24日と新潟県立小出高校において、短歌教室出前講座を開催しました。二日間で4クラス約140人の生徒を対象に歌人の田宮朋子先生から指導いただきました。若い世代が短歌に触れる貴重な機会となったと思います。

### ジュニア短歌教室

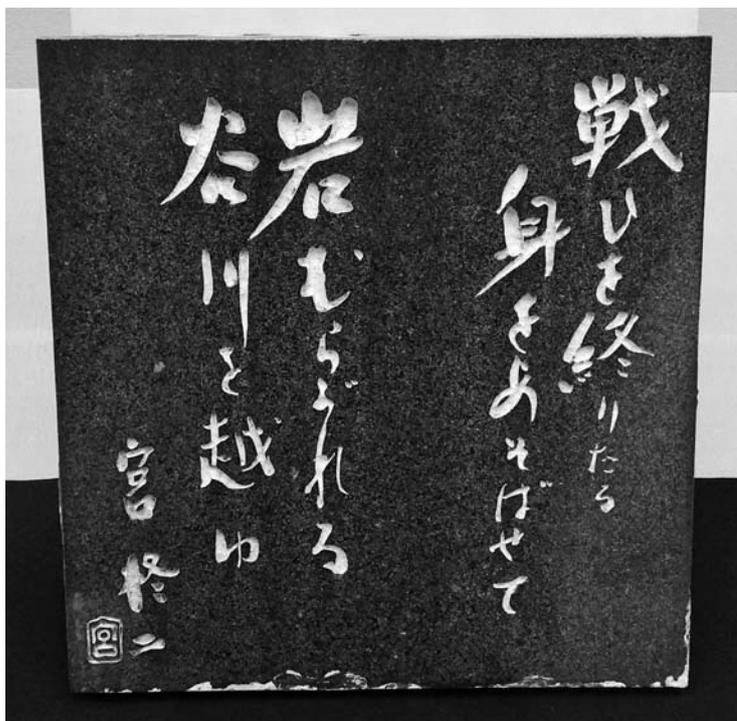


8月17日、ジュニア短歌教室を開催しました。  
今年も記念館を飛び出して広神コミュニティセンターで開催しました。  
夏休みの宿題や自由研究の課題として、短歌作成に親んでいただきました。参加した子どもたちは、大人顔負けの力作や子どもの感性をいかしたほのぼのとした作品を作っていました。

### 今井進陶芸小品展



9月8日～9月24日、当館エントランスで今井進陶芸小品展を開催しました。  
堀之内出身の今井さんをご自分たちで管理する焼窯で焼き上げた力作を展示いただきました。  
期間中、ご本人による展示解説も開催しました。



黒御影石製歌碑  
(第一展示室展示中)

## 宮柊二記念館収蔵資料紹介 No.49

富山県の宇奈月温泉にある歌碑を、平成30年度の企画展示で初めて展示しています。実際の歌碑には柊二と妻英子の歌が並んで設置されていますが、展示品は柊二の歌のみになります。平成8年11月にコスモス短歌会富山支部より寄贈いただきました。

### 記念館前公園の四季

宮柊二記念館前公園は、春は桜、秋は紅葉と美しい草木の風景が楽しめます。

今年の紅葉も終りを迎えました。お近くにお越しの際は、四季折々の景色をご覧にお立ち寄りください。



春、記念館前公園の風景

### 「友の会」からのお知らせ

宮柊二記念館では、会員を募集しています。年会費は1,000円です。  
くわくすいどほ、宮柊二記念館にお問  
ご合わせください。

宮柊二記念館だより 第49号

発行 2018. 11. 10

問合せ 宮柊二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp ホームページ <http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji>